

薄型突っ張り収納庫 扉タイプ 幅45 奥行19 組立説明書 型番F-282

—この度は本品をお買い上げいただき—
誠にありがとうございます。

完成図

扉が左開きの場合



【日本製】

たんす類の品質表示

寸法

外形 約 幅450mm × 奥行191mm × 高さ1830~2320mm

引出しの奥行き

表面材 プリント紙化粧合板

表面加工

取り扱い上の注意

- イ. 据付けの際は、湿気の多いところを避け、家具を水平に保つために必要な措置を講じてください。
- ロ. 直射日光又は、ストーブなどの熱を避けてください。

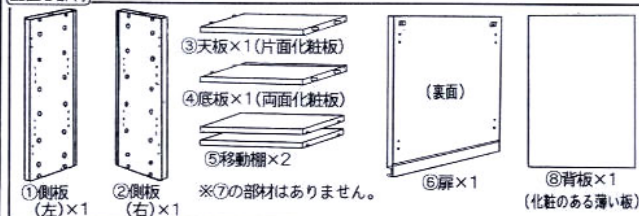
耐荷重量についての表示 棚板は約10kgを超えない範囲でご利用下さい。

部材・部品明細

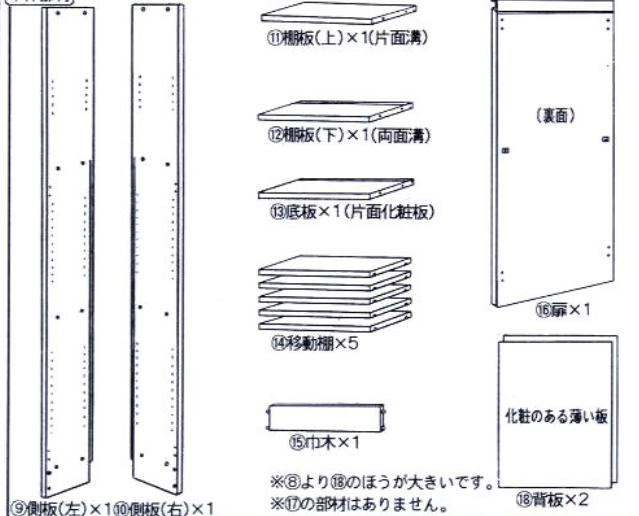
（部品明細）※下図に描かれた部材・部品が揃っているか、確認して下さい。

※梱包を開けると、箱の両端に薄い板が1枚づつ入っています。これは商品を守るためのものであり、組み立てに必要な部材ではありませんので、処分していただくようお願い致します。

上置き部材



本体部材



△組み立て前に必ずお読み下さい!

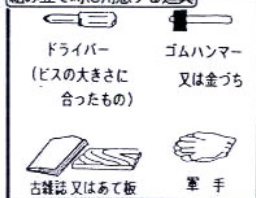
- 塗料・接着剤等の臭いがかもっている場合があります。梱包を開けて作業する場合は通気性を良くして行ってください。
- 組み立ては十分に広い場所で行い、まわりの家具や床等に傷つかないように注意してください。
- 組み立ての際は指を挟んだり、足にものを落とさないように充分注意してください。
- 組み立てる前にまず部材・部品を確認してください。
- 万一、傷・不足があればご面倒ですが下記のお問い合わせ窓口までご一報ください。
- ボンドをつける前に仮組み(確認)をすると、間違いが防げます。
- 部材をボンドで接着した後は外す事ができませんのでご注意ください。
- ビスのプラス穴に合ったドライバーを使用し、最初は仮締め程度にして組み上がってから締めてください。
- ビスを必要以上に締め過ぎると、空回りして効かない場合があります。電動ドライバーをご使用の場合はご注意ください。
- ボンドが完全に乾いてから(12時間程度が目安です)ご利用ください。尚、はみ出たボンドは拭き取ってください。

(注意)※商品を守るために薄い板が2枚入っていますが、組み立てに必要な部材ではありません。

※裏面の取扱説明書も必ずお読み下さい。また、この説明書はいつでも見られるように大切に保管して下さい。

上記の注意事項に充分注意して、正しく組み立てて下さいますようお願い致します。

組み立て時に用意する道具



付属部品						
A	B	C	D	E	F	G
ビス×12	ボンド×1	マグネット×2	背板止め×12	蝶番×4	蝶番用ビス×16	蝶ボゴ×28
3.8cm					1.2cm	
H	J	K	L	M	N	O
ビスシール×32	ジョイントボルト×4	ジョイントナット×4	突っ張り金具×2	スパナ×1	L型金具×2	L型金具用ビス×8
						1.6cm

組み立ての手順

F-282

番号の順番に従って、組み立てて下さい。

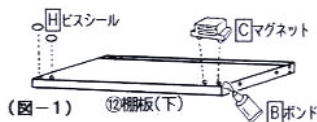
※ハンマーで叩く場合は、あて板・古雑誌(厚みが2cm以上あるもの)等をあてて下さい。

1 本体を組み立てる。

【注意】※マグネットを取り付ける時は、扉を右開きにするか左開きにするか決めた上で取り付けて下さい。

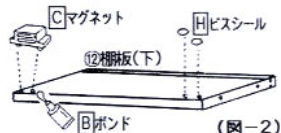
●扉を右開きにする場合……

⑫棚板(下)の穴2個に[B]ボンドを入れて[C]マグネットを取り付け、不要な穴2個に[H]ビスシールを貼って下さい。(図-1参照)



●扉を左開きにする場合……

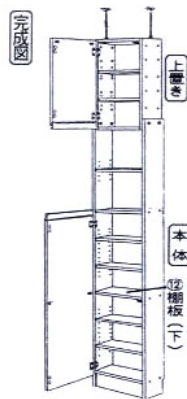
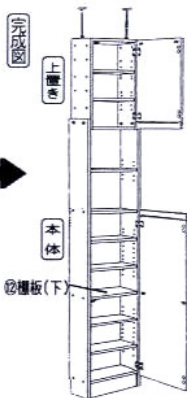
⑫棚板(下)の穴2個に[B]ボンドを入れて[C]マグネットを取り付け、不要な穴2個に[H]ビスシールを貼って下さい。(図-2参照)



※かたい場合は[C]マグネットに古雑誌などをあて軽くたたいて下さい。
なお、たたき過ぎると破壊する恐れがありますので、マグネットの突起した部分(差し込む部分)2本をサンドペーパーなどで少し削ると入りやすくなります。
ただし、削り過ぎにご注意下さい。

●マグネットを①の位置に取り付けると右開きになります。

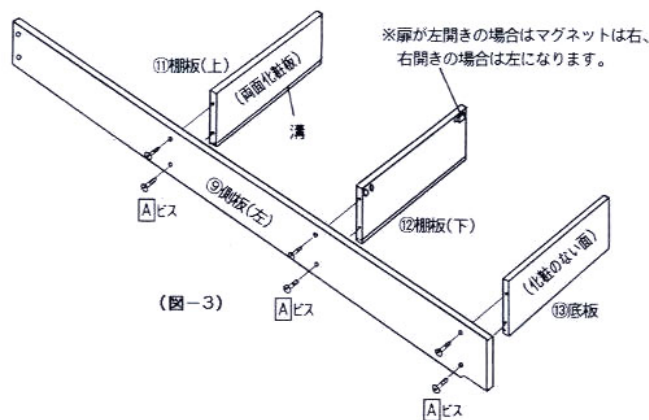
●マグネットを②の位置に取り付けると左開きになります。



2 本体を組み立てる。(続き)

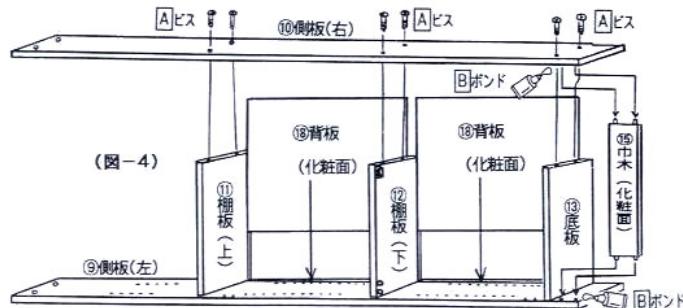
※図-3と図-4は扉が左開きになる説明図ですが、右開きの場合も組み立て方は同じ要領です。

(1)⑨側板(左)に⑪棚板(上)・⑫棚板(下)・⑬底板を、[A]ビスで取り付けます。(図-3参照)



(2)⑨の穴2個に[B]ボンドを入れて⑮竹木を差し込み、⑪・⑫・⑬の溝に沿って⑮背板2枚を化粧面に前に向けて差し込みます。(図-4参照)

(3)⑩側板(右)の穴2個に[B]ボンドを入れて⑮に差し込み、⑪・⑫・⑬に[A]ビスで固定します。(図-4参照)この時、⑬2枚が各溝に入っているか確認してからビス締めして下さい。



▼組み立ての手順が裏面に続きます。

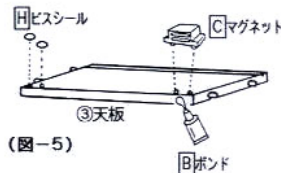
3 上置きを組み立てる。

F-282

【注意】※マグネットを取り付ける時は、扉を右開きにするか左開きにするか決めた上で取り付けて下さい。

●扉を右開きにする場合……

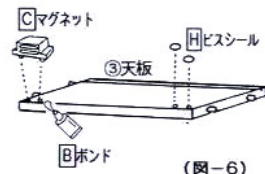
③天板の穴2個に[B]ボンドを入れて[C]マグネットを取り付け、不要な穴2個に[H]ビスシールを貼って下さい。
(図-5参照)



(図-5)

●扉を左開きにする場合……

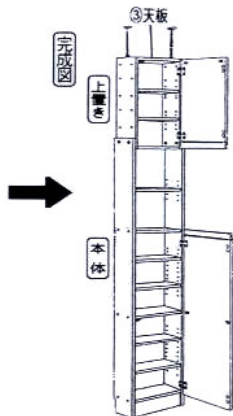
③天板の穴2個に[B]ボンドを入れて[C]マグネットを取り付け、不要な穴2個に[H]ビスシールを貼って下さい。
(図-6参照)



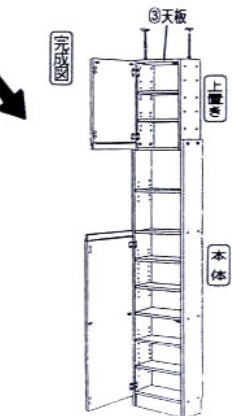
(図-6)

※かたい場合は[C]マグネットに古雑誌などをあてて軽くたたいて下さい。
なお、たたき過ぎると破損する恐れがありますので、マグネットの突起した部分(差し込む部分)2本をサンドペーパーなどで少し削ると入りやすくなります。
ただし、削り過ぎにご注意下さい。

【注意】※マグネットを図10-5の位置に
取り付ける時は右開きになります。



【注意】※マグネットを図10-6の位置に
取り付ける時は左開きになります。

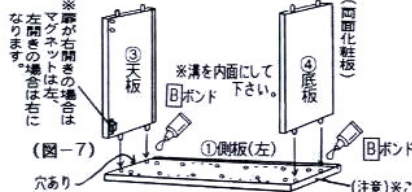


4 上置きを組み立てる。(続き)

※図-7と図-8は扉が右開きになる説明図ですが、左開きの場合も組み立て方は同じ要領です。

(1)①側板(左)の穴4個に[B]ボンドを入れ、③天板と④底板を差し込みます。(図-7参照)

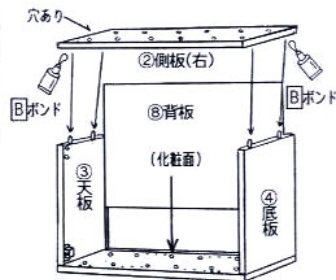
(2)③と④の溝に沿って⑧背板を差し込み、②側板(右)の穴4個に[B]ボンドを入れ、③と④の突起した部分に穴を合わせて、上から傷のつかないようにあてものをあてて打ち込みます。(図-8参照)
この時、⑧が各溝に入っているか確認してから打ち込んで下さい。



※扉が右開きの場合には
マグネットは左
左開きの場合右に
なります。

※溝を内面にして
Bボンド 下さい。

(図10-4化粧板)



(図-8)

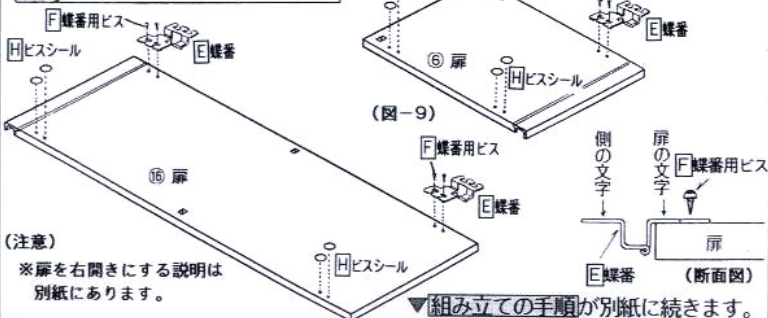
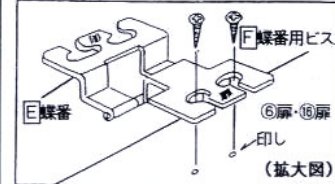
(注意)※この部分に穴がない方に、④底板を取り付けて下さい。

5 扉に蝶番を取り付ける。

●扉を左開きにする場合……

(1)上置きの扉⑤と本体の扉⑬の印しに[E]蝶番2個を合わせて、F蝶番用ビスで向きに注意して取り付けます。
(図-9・拡大図・断面図参照)

(2)不要な穴4個に[H]ビスシールを貼って下さい。
(図-9参照)



(注意)

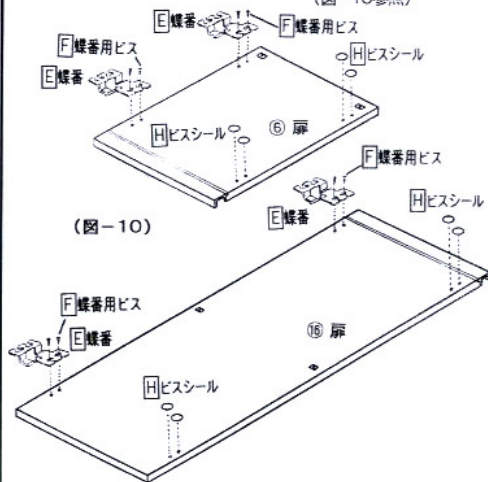
※扉を右開きにする説明は別紙にあります。

▼組み立ての手順が別紙に続きます。

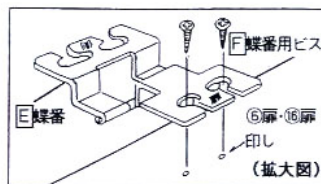
6 扉に蝶番を取り付ける。(続き) F-282

●扉を右開きにする場合……

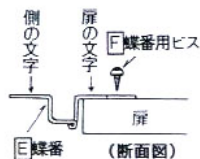
- (1) 上置き扉⑥と本体の扉⑩の印しにE蝶番2個を合わせて、F蝶番用ビスで向きに注意して取り付けます。
(図-10・拡大図・断面図参照)
- (2) 不要な穴4個にHビスシールを貼って下さい。
(図-10参照)



(図-10)



(拡大図)



(断面図)

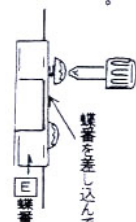
7 扉を取り付ける。(左開きの場合)

●上置き扉を左開きにする場合……

- (1) ①側板(左)の印し4カ所にF蝶番用ビスを半分程度残してビス締めします。(図-11・図-13参照)
- (2) ⑥扉に取り付けたE蝶番を、①に取り付けたF蝶番用ビスに合わせて差し込みビス締めします。(図-12・図-13参照)
- (3) 最後に②側板(右)の穴4個にHビスシールを貼って穴を隠して下さい。(図-13参照)



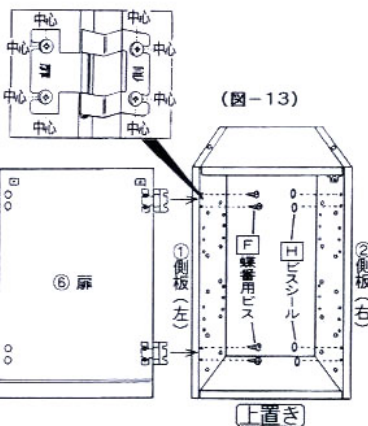
(図-11)



(図-12)

蝶番の厚みを残してビス締めします。

蝶番を差し込んで固定します。



(図-13)

(注意)

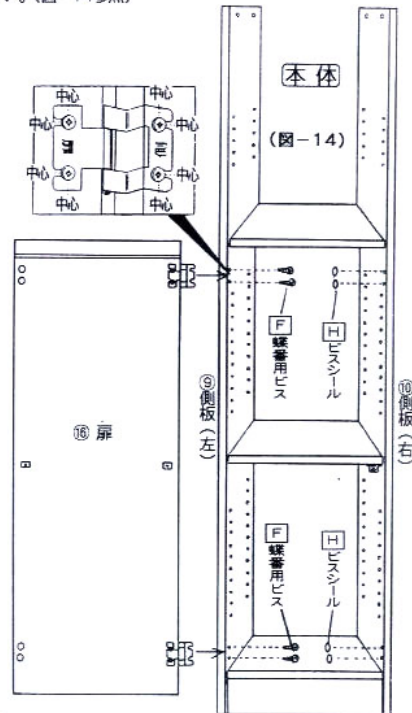
※蝶番のビス締める部分は楕円形になっていますので、最初は楕円形の中心でビス締めして下さい。すきまや高さが合わない場合にビスを少し緩め、前後・上下させて調整して下さい。

(図-13・図-14参照)

※扉を取り付けた後ビスを少し緩め、すきまの調整をしてからしっかりと固定します。扉に取り付けたF蝶番用ビスで、扉を横に動かすことができます。側板に取り付けたF蝶番用ビスで、扉の高さを調整出来ます。

●本体の扉を左開きにする場合……

- (1) ③側板(左)の印し4カ所にF蝶番用ビスを半分程度残してビス締めします。(図-11・図-14参照)
- (2) ⑩扉に取り付けたE蝶番を、③に取り付けたF蝶番用ビスに合わせて差し込みビス締めします。(図-12・図-14参照)
- (3) 最後に⑩側板(右)の穴4個にHビスシールを貼って穴を隠して下さい。(図-14参照)



(図-14)

▼組み立ての手順が裏面に続きます。

※扉を閉めるときは、必ず扉の両側面に沿って押し込みます。

8 扉を取り付ける。(右開きの場合)

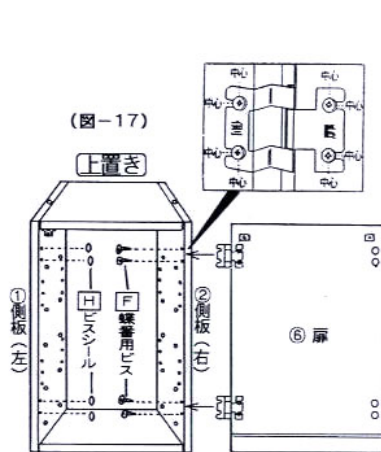
F-282

●上置き扉を右開きにする場合……

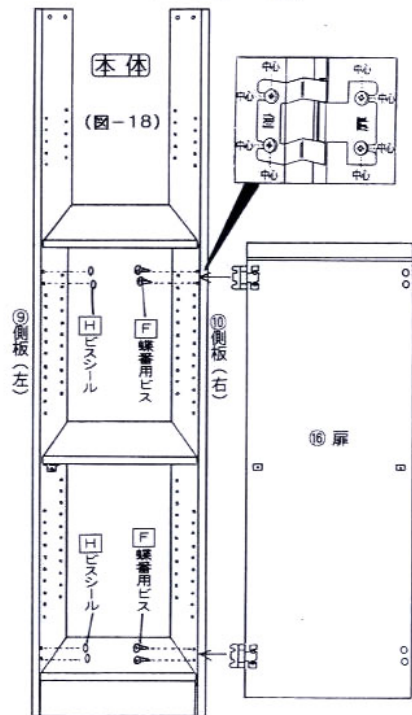
- (1) ②側板(右)の押し4カ所にF蝶番用ビスを半分程度残してビス締めします。(図-15・図-17参照)
- (2) ⑥扉に取り付けたE蝶番を、②に取り付けたF蝶番用ビスに合わせて差し込みビス締めします。(図-16・図-17参照)
- (3) 最後に①側板(左)の穴4個にHビスシールを貼って穴を隠して下さい。(図-17参照)

●本体扉を右開きにする場合……

- (1) ⑩側板(右)の押し4カ所にF蝶番用ビスを半分程度残してビス締めします。(図-15・図-18参照)
- (2) ⑩扉に取り付けたE蝶番を、⑩に取り付けたF蝶番用ビスに合わせて差し込みビス締めします。(図-16・図-18参照)
- (3) 最後に⑨側板(左)の穴4個にHビスシールを貼って穴を隠して下さい。(図-18参照)



(図-17)



本体

(図-18)

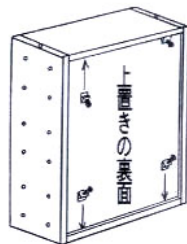
(注意)

※蝶番のビス締めする部分は楕円形になってい
るので、最初は楕円形の中心でビス締めして下
さい。すきまや高さが合わない場合にビスを少し緩め、
前・後・上・下させて調整して下さい。
(図-17・図-18参照)

※扉を取り付けた後ビスを少し緩め、すきまの調整をしてからしっかりと固定します。
扉に取り付けたF蝶番用ビスで、扉を横に動かすことができます。
側板に取り付けたF蝶番用ビスで、扉の高さを調整出来ます。

9 背板止めを取り付ける。

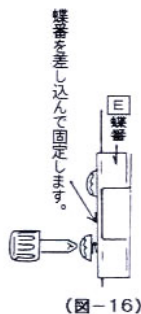
上置きと本体の横揺れを軽減するため、
D背板止めを取り付けます。



取り付け方は上置きと本体の裏面の
背板部分にD背板止めのツメを溝に
入れ、ビスで固定して下さい。
(図-19・図-20参照)



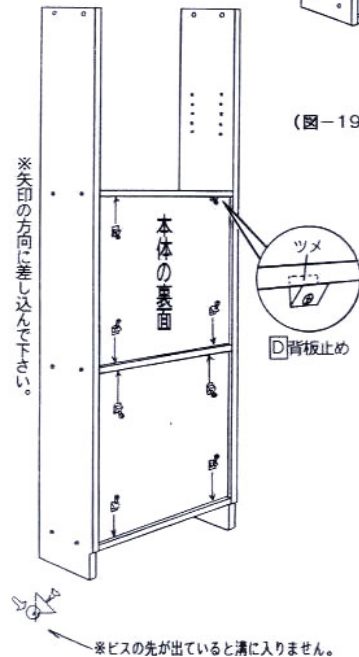
蝶番の厚みを残してビス締めします。
(図-15)



(図-16)

※矢印の方向に差し込んで下さい。

(図-19)

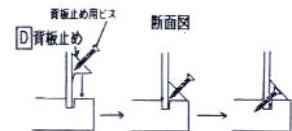


※矢印の方向に差し込んで下さい。



D背板止め

※ビスの先が出ていると溝に入りません。



(図-20)

▼組み立ての手順が別紙に続きます。

